

# 農薬豆知識

# 雑草のお話 《畑作雑草について》

## Q:畑に発生する雑草は？

A:北海道の畑でよく見られる雑草のうち、イネ科雑草はイヌビユ、スズメノカタビラ、シバムギ等、広葉雑草はタデ、タニソバ、イヌビユ、シロザ、ハコベ、スカシタゴボウ、イヌホオズキなどです。



## Q:それぞれの雑草の別称や特徴は？

A:北海道で貧乏草といえばスズメノカタビラのことを指しますが、地区によっては違う雑草を指すことがあり、本州では貧乏草=ヒメジョオンです。その他シバムギは「針金牧草」、レッドトップ(コヌカグサも正式名称)は「鬼牧草」、イヌホオズキは、「くろんぼ」、「カラスぶどう」などと呼ばれています。数年前、斜里方面の方から「ビート畑の『ブタクサ』に困っている」という質問を受け、確かに図鑑には載っていましたが見たことの無い雑草で、知見が無く回答できない事がありました。結局それは「イヌビユ」の俗称だったということがありました。(ハーブラック顆粒水和剤がよく効きます。)

メジャーな雑草の「アカザ・シロザ」は、中心に付着している粉質の色で呼び分ける事がありますが、分類上では赤色を帯びていても「シロザ」がほとんどです。本物のアカザは紅紫色が大変美しく、畑で見ることはずいぶん少ないと思いますが、伊達の一部では生息しているという噂があります。なお、シロザの種子は土中で40年も生きることが出来るそうです。北見管内ではシロザより葉が細い「コアカザ」を見ることも多いです。



## Q:特に困っている雑草は？

A:イヌホオズキは7月に入ってからダラダラと発生するので、抜き草担当の奥さんの機嫌を損なう、大変困った雑草です。「昔はよく実を食べた」と聞くことがありますが、ナス科の有毒植物ですのであまり食べない方が良くもありません。ベタナール乳剤+ハーブラック顆粒水和剤が効果的との声があり、今年実証試験を数ヶ所で実施予定です。



ツククサは効果的な選択性除草剤が少ない雑草で、メラクロール(ベタダイヤA乳剤に含まれる)やセンコル水和剤くらいしか効きません。



## Q:今後の除草剤の動向について

A:畑作除草剤は息の長い剤が多く、ベタナール乳剤は 2008 年で発売40周年を迎えました。畑作除草剤は新剤が登場する頻度が少なく、現存の剤を有効に利用していくことが必要です。同じ場面でも、2種類以上の除草剤を選択できる場合が多いので、雑草の発生条件・圃場の状態により適切な除草剤を選ぶのが理想的です。水田除草剤は製品として初めから3種・4種混合が当たり前となっていますが、畑作除草剤は単剤が多いのも特徴です。単剤のメリットとしては、雑草の種類や圃場の水分条件等で混合割合を変え自分の畑に合ったものを散布できますが、デメリットは混用時のわずらわしさがあります。ベタダイヤA乳剤やピンサイド乳剤の様に混合剤が出来た例もありますが、原体メーカーとの絡みもあり、

なんでも混合製剤化することは難しい現実があります。しかし北海道では大規模化が進んでいますし、現場のニーズに合わせた混合剤の開発を目指して行きたいと思っています。

(2008年6月 そあら一記)